

# 令和4年度 委員会行政視察実施報告書

(視察箇所ごとに作成)

委員会名	議会運営委員会			
参加委員	◎松尾 卓 飯島伴典 佐藤論征議長	○林 和明 村越深典 西沢逸郎副議長	井澤 毅 久保田由夫	金井清一 飯島裕貴

◎委員長、○副委員長

## 1 上田市での課題と視察の目的

議会は地方公共団体の議事機関、住民の代表の機関として、執行機関の事務執行をチェックするとともに、意思決定を行う等の立場にある。こうした議会としての機能を災害発生や感染症拡大時においても議会機能を保持するため、議会業務継続計画（議会 BCP）を策定する必要がある。また、そのために ICT のさらなる推進が必要であり、先進地の取り組みを参考にしたい。

## 2 実施概要

実施日時	視察先	茨城県 鹿嶋市
令和4年10月13日(木) 14時00分～15時30分	担当部局	議会事務局
視察事業名	災害時、感染症拡大時でも継続的な議会活動や ICT の活用について	
報告内容	<p>1 視察先の概要</p> <p>明治、昭和の大合併を経て、平成7年に鹿島町と大野村が合併して鹿嶋市が誕生。 面積：106.04K m<sup>2</sup>、人口：66,056人（令和4年9月1日現在） 高齢化率：31.18%、歳出総額：338.1億円、財政力指数：0.99、 自主財源比率：40.3%</p> <p>2 視察先の特徴</p> <p>①サッカーのまち：4万人を収容できるカシマサッカースタジアムを有する。2002年にはFIFAワールドカップ、2021年には東京オリンピックでサッカー競技が開催された。鹿嶋アントラースのホームゲームでは、熱狂的なサポーターでスタジアムが赤一色なる。</p> <p>②鹿島臨海工業地帯：昭和30年代後半から開発がスタート。鉄鋼業が主要産業。鹿島港は掘り込み式の港で取り扱い貨物量は年間6,600万トンを超える。</p> <p>③鹿島神宮：武道の神様である武甕槌大神を御祭神として、皇紀元年紀元前660年に創建されたといわれる関東最古の神社が所在する。</p> <p>④名産品：鹿島たこ、鹿島灘はまぐり。</p> <p>3 視察事項について</p> <p>(1)議会タブレットは導入済みで、全議員に1台ずつ貸与されている。</p>	

## (2) 議会業務継続計画（議会 BCP）について

- ①目的：大規模災害やパンデミックと呼ばれるような感染症・伝染病の大流行時においても、議事・議決機関、住民代表機関として議会の役割が迅速かつ適切に機能維持すること。
- ②経過：令和2年8月から議会運営委員会正副委員長と事務局が原案（たたき台）を作成。令和3年5月から11月にかけて議会運営委員会の7回の協議を経て原案を作成し、全員協議会において承認を得た。
- ③内容：計画の目的、災害時の議会・議会事務局の体制、議員の行動指針と行動基準、大規模災害発生時における議案審議継続のための業務継続計画、感染症拡大時の議会活動、情報伝達手段「LINEWORKS」の活用、議会の日常的な備え、BCPの見直し等、10項目。
- ④今後の取組：議会基本条例の見直しの際、議会業務継続計画（議会 BCP）を条例の中に位置付ける予定。
- ⑤備考：市議会自然災害発生時行動マニュアル、感染症発生時行動マニュアルを策定済み。

## (3) 議会の ICT 活用について

- ①議会タブレット：ペーパーレス会議システム「SideBooks」や、連絡調整のため「LINEWORKS」を使用している。（議会 BCP の中で位置付け）
- ②オンライン会議：タブレット端末、スマートフォン等を使用したオンライン会議の実証実験を実施。（定例会開会1週間前に議案事前説明会を、Zoomを活用して実施）
- ③今後の取組：会議規則や委員会条例の改定を行い、オンライン会議の運用要綱、規定等の整理を行う。



上田市議会においては、一般会計決算特別委員会理事会における決算審査の状況についての検証により、浮き彫りになった課題を解決するため、さらなるタブレットの使用方法の検討や ICT 活用による審査の効率化等が必要である。

また、議会機能を維持するため、タブレット等を活用したオンライン会議・委員会開催が重要であり、これを議会業務継続計画に位置付けるとともに、会議規則の改正、委員会条例改正、オンライン会議の運用要綱等の検討が必要となる。

こうした課題に対し、鹿嶋市議会における、ICT を活用した議案の事前説明会及びオンライン会議の実証実験を実施した取組は大いに参考となった。

今回の視察を参考とし、ICT のさらなる活用については今後も他議会の取組を調査、研究するとともに、優先項目から順次着手していきたい。

## 考 察

(まとめ:市政に活かせると思われる事項等)



※視察先の写真、資料等がある場合は添付のこと

# 令和4年度 委員会行政視察実施報告書

(視察箇所ごとに作成)

委員会名	議会運営委員会			
参加委員	◎松尾 卓 飯島伴典 佐藤論征議長	○林 和明 村越深典 西沢逸郎副議長	井澤 毅 久保田由夫	金井清一 飯島裕貴

◎委員長、○副委員長

## 1 上田市での課題と視察の目的

コロナ禍を契機に地方自治体、議会では有事に備えた接触機会低減、感染症対策のためオンライン会議を導入しつつある。上田市議会では議場でのインターネット配信は開始したが委員会での配信は未導入であり、オンライン会議の導入も今後の課題となっている。そのために ICT 活用のさらなる推進が必要であり、先進地の取り組みを参考にしたい。

## 2 実施概要

実施日時	視察先	茨城県 取手市
令和4年10月14日(金) 13時15分～15時15分	担当部局	議会事務局
視察事業名	議会 ICT 化の推進について	
報告内容	<p>1 視察先の概要</p> <p>取手市は、茨城県の南端に位置し、市域は総面積 69.94 平方キロメートル、東西 14.3 キロメートル、南北 9.3 キロメートルであり、利根川とその支流である小貝川の二大河川が流れる水と緑に恵まれた地域。</p> <p>2 視察先の特徴</p> <p>茨城県の南部の玄関口としてばかりでなく、東京、成田、つくばを結ぶ三角形のほぼ中央に位置していることから交通の要となっており、首都圏の都市の中でも、交通の利便性と自然環境に恵まれた都市環境となっている。</p> <p>水と緑に恵まれた取手市では酒造業が盛んで、市を代表する特産品にもなっており、その他にも漬物や味噌、ハーブやトマトなどの生産も活発。</p> <p>3 視察事項について</p> <p>(1)議会改革度調査について二年連続一位となっている。</p> <p>(2)議会改革、ICT の取組について</p> <p>①AI 認識字幕のライブ配信：ライブ配信の下に AI 認識した字幕を表示。会議を可視化している。</p> <p>②市民リライター：会議録作成に高校生や市民の方が自宅からオンラインで参加。議会の理解を深めている。</p>	

- ③出前講座：議会事務局職員が「議会とは」等について学校で出前講座を実施している。
- ④会議資料のネット公開：本会議、委員会配布資料を市ホームページで公開している。
- ⑤360度カメラでライブ配信：視聴者が会議室のライブ配信映像を上下左右に動かすことにより、その場にいるような臨場感で会議を見られる。
- ⑥欠席事由に出産を明記：平成30年から会議規則の欠席事由に「出産」明記。女性の政治参画を先駆けて進めている。
- ⑦オンライン委員会：感染拡大時などの有事に加え、平時でも議会の機能を円滑に果たすため、オンライン委員会の開催を可能にしている。
- ⑧デモテック協定：官、民、学連携協定で議会のさらなるICT化による新しい民主主義の手法構築に向けて取り組んでいる。
- ⑨オンライン意見交換会：新型コロナウイルス感染拡大時でも意見交換が可能となるよう、オンラインを併用して市民の声を聴いている。



考 察  
  
(まとめ:市政に活かせると思われる事項等)

2020年に当時の上田市議会タブレット導入研究委員会では当時からICT化のさきがけとなっていた取手市議会とオンライン視察を行った。その際に取手市議会の先進的なICT利活用に感嘆したことから、さらなるICT利活用促進に関する取組を議会運営委員会として取り入れるべく今回改めて現地視察を行った。

取手市議会のICTを活用した取組は、それを支える議会愛にあふれた議会事務局との相互作用により、議会改革度一位という名のおりどれも他市議会では見ることのできない飛び抜けて先進的な内容であり、特にAIによる文字認識やオンライン委員会に関する取組は、上田市議会にとって非常に参考となるものであった。

上田市議会においても委員会配信や、オンライン委員会等研究を続け、今後できることから導入していくことが重要であると考えます。



※視察先の写真、資料等がある場合は添付のこと